

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 819 号	氏名	俵 祐一
学位審査委員		主 査	石松 祐二
		副 査	東 登志夫
		副 査	高村 昇
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、長崎県松浦市における慢性閉塞性肺疾患（COPD）への対策事業への取り組みに関して、COPD 患者発見率と医療費の観点からその有用性を検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 2006 年より長崎県松浦市で「COPD 対策事業」が実施されているが、その内容は 2006 年及び 2011 年に COPD 検診を、さらに継続的に COPD 患者フォローアップ、呼吸器教室開催などを開催している。本研究では対策事業による松浦市の COPD の推定患者数、有病率の推移を算出し、さらには全国データと比較することで、対策事業の有用性について検証している。また、同時に国民健康保険のデータを活用し、COPD 医療費（外来・入院）に関して、長崎県他地域（松浦市以外）と比較することで、同事業による医療費の抑制についても検討しており、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、事業開始初年度（2006 年）では有病率 9.2% で COPD 推定患者の 17% と発見することができ、さらに 2014 年には COPD 推定患者の 31% を発見できたことが明らかとなった。COPD 医療費に関しても松浦市と県内他市町村と比較し、入院医療費が有意に少なく、年次推移についても有意に増加率は低い結果であった。以上より、同対策事業の有用性が確認され、今後の COPD 対策事業の展開が大いに期待される内容であった。</p> <p>以上のように本論文は COPD 対策事業に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			